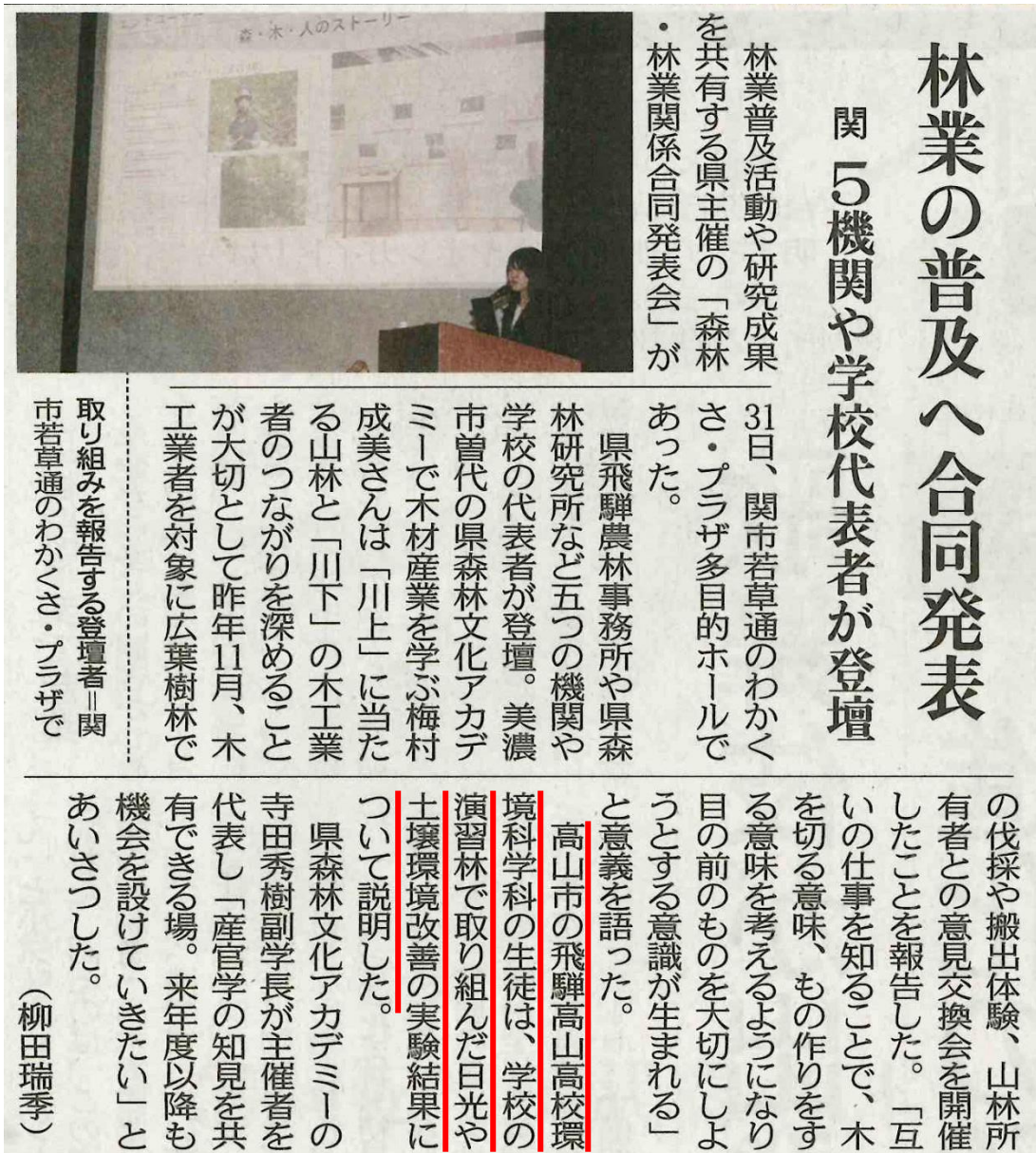


環境科学科

森林・林業関係合同発表会で 演習林の環境改善について発表



林業の普及へ合同発表

関5機関や学校代表者が登壇

林業普及活動や研究成果を共有する県主催の「森林・林業関係合同発表会」が

31日、関市若草通のわかくさ・プラザ多目的ホールであった。

県飛騨農林事務所や県森林研究所など五つの機関や学校の代表者が登壇。美濃市曾代の県森林文化アカデミーで木材産業を学ぶ梅村成美さんは「川上」に当たる山林と「川下」の木工業者のつながりを深めることが大切として昨年11月、木工業者を対象に広葉樹林で

取り組みを報告する登壇者＝関市若草通のわかくさ・プラザで

の伐採や搬出体験、山林所有者との意見交換会を開催したことを報告した。「互いの仕事を知ること、木を切る意味、もの作りをする意味を考えるようになり目の前のものを大切にしようとする意識が生まれる」と意義を語った。

高山市の飛騨高山高校環境科学科の生徒は、学校の演習林で取り組んだ日光や土壌環境改善の実験結果について説明した。

県森林文化アカデミーの寺田秀樹副学長が主催者を代表し「産官学の知見を共有できる場。来年度以降も機会を設けていきたい」とあいさつした。

(柳田瑞季)